

算面森林
ふれあひ
推進七二〇一
年報



令和
二年度

Yaha
nashi





はじめに

全国の森林面積の3割を占める国有林を管轄している林野庁では、全国に9箇所の森林ふれあい推進センターを設置しています。それぞれの地域の特色を活かし、国有林野を活用してNPO団体等が行う自然再生活動及び生物の多様性の保全活動、学校及びNPO等が行う森林環境教育等に対して、技術的な指導や情報の提供等の支援を行っています。

箕面森林ふれあい推進センターでは、都市部に近接し、観光や野外活動などのレクリエーション利用が多いといった箕面国有林の特色を活かして、地域のNPO団体や教育機関と連携した森林環境教育（森林ESD）、里山再生、森林の獣害対策など地域の課題解決に向けた多様な活動を行っています。これらの活動は、私たちと一緒に取り組んでいただいている皆様、活動に参加していただいた皆様の御支援があってこそ継続できているものであります。皆様の御理解と御協力に心から感謝申し上げますとともに、今後も引き続き御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

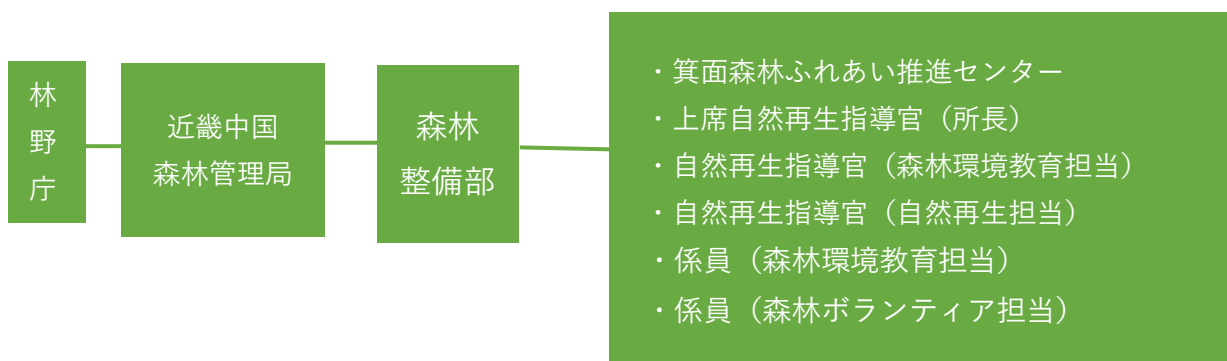
なお、昨年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、計画していた取組が思うように実施できず、報告内容が例年とはかなり異なった内容となっておりますので御了承をお願いします。一日も早くコロナ禍が落ち着き、子供たちの生き生きとした野外活動や森林環境教育などに取り組めることを切に願っております。

最後になりますが、この冊子を御覧になった皆様から、当センターの活動に対して忌憚のない御意見をいただければ幸いです。

令和3年3月

箕面森林ふれあい推進センター所長 高山 伸昌

組織内容



目次

はじめに
組織の概要

I 自然再生の取組

- | | |
|-------------------------------|----|
| 1 「箕面体験学習の森」について | 1 |
| (1) 取組の目的 | |
| (2) 森林整備 | |
| (3) ニホンジカ被害対策 | |
| (4) 植生及び成長量調査 | |
| (5) 昆虫ベッドの整備 | |
| (6) 特定外来生物ウシガエルの駆除 | |
| (7) 森林環境教育での活用 | |
| (8) 広報・普及活動 | |
| (9) 「箕面体験学習の森」育成・活用事業（Ⅱ）検討委員会 | |
| 2 箕面国有林におけるニホンジカ被害対策 | 18 |
| (1) 取組の背景・目的 | |
| (2) 事業内容 | |
| (3) 普及・広報 | |

II 森林環境教育の取組

- | | |
|----------------------------|----|
| 1 教員向け研修 | 29 |
| (1) 森林環境教育研修 | |
| (2) 「森の探検隊」教員研修 | |
| (3) 創作紙芝居「雨水のぼうけん」の作成 | |
| 2 森林環境教育プログラム「森の探検隊」の開発と実践 | 32 |
| (1) 「森の探検隊」とは | |
| (2) モデルコースの選定 | |
| (3) エリア拡充踏査 | |
| (4) 森林環境教育手引書改訂の取組 | |
| (5) 研修受講生への追跡アンケートの実施 | |

III 森林・林業・木材利用に関する広報・普及活動

- | | |
|-----------------|----|
| 1 森林ふれあい推進事業 | 34 |
| (1) カブトムシ里親まつり | |
| (2) 水源の森ジオラマづくり | |
| (3) 草木染め体験イベント | |
| 2 冊子活用（配布）状況 | 36 |
| 3 情報発信 | 37 |

IV その他

- | | |
|-------------------------------------|----|
| 1 運営推進懇談会 | 38 |
| 2 取組一覧、連携一覧 | 40 |
| 令和2年度発行 こだま通信・近畿中国森林管理局広報「森のひろば」抜粋版 | 43 |

1 箕面体験学習の森について

(1) 取組の目的



【図 - 1 「箕面体験学習の森」整備イメージ】

大阪府北部の箕面国有林（箕面市）を含む北摂地域では、かつて「台場クヌギ」を仕立て菊炭を生産するなど活発な里山の利用が行われていましたが、現在ではスギ、ヒノキなどの人工林が大半を占めています。

このような状況の中、当センターでは、平成 16～18 年度の里山再生推進モデル事業の取組をまとめた「里山再生ガイドライン」を作成し、里山に位置する国有林の整備や各地の里山保全活動に活用して頂く取組を行いました。

これらの取組結果を踏まえつつ、里山モデル林を含む地域における積極的な広葉樹の育成や伐採などによる木材利用及び菊炭づくり体験などを通じて、森林環境教育のフィールドとして活用することを念頭に、多様性豊かな里山の再生と生物多様性の向上を目指し、平成 20 年 5 月に策定した「箕面体験学習の森」整備方針に基

づき、里山整備に着手・実行してきました。

特に、箕面国有林にある展望台周辺のスギ、ヒノキ人工林を伐採し、クヌギ、コナラなどの落葉広葉樹に転換する「オオクワガタの棲（す）める森づくり」プロジェクトを展開し、必要な森林整備を行ってきましたが、平成 28 年度から、「今後は、当該森林の活用についても推進していくべき」との検討委員会における意見等を踏まえ、「箕面体験学習の森」育成・活用事業と名称を変更して具体の活用に向けた取組に着手しました。取組に当たっては、これまでと同様にボランティア団体との連携を図りながら、下刈り等保育作業や歩道の刈り払い、ニホンジカによる食害を未然防止するための既設防鹿柵の点検・修理を行うなど必要な条件整備を行いつつ、森林環境教育の一環として、小学生・教員を対象とした「森の探検隊」イベント等を実施し、森林環境教育プログラムの検証を行いました。次年度以降も引き続き、地域と連携した取組を進めていくこととしています。

(2) 森林整備（林業体験・里山体験ゾーンにおける・除伐等の実施）

ア 除伐

(ア) NPO 法人日本森林ボランティア協会による除伐作業（延べ 43 人）

(イ) 箕面森林ふれあい推進センター職員による除伐作業（延べ 38 人）



【写真－1
日本森林ボランティア協会 除伐】



【写真－2
センター職員 除伐】

イ 台場クヌギの育成・管理

平成 30 年 11 月 14 日（水）、きんきちゅうごく森林づくりの会と連携し青空

教室エリアにあるクヌギ2本を台場クヌギに仕立てるため、地上から2 mの高さで伐採を行いました。

今年度は、萌芽枝の確認、生育状況の確認を行ってきましたが、1本は萌芽し現在順調に生育しています。もう1本は被陰木やアブラムシ被害の影響により、生育が思わしくないことから、アブラムシ被害の防除を行うとともに、被陰木（アラカシ）12本を令和3年2月18日（木）に伐採しました。

今後については、「箕面体験学習の森」育成・活用事業（Ⅱ）検討委員会委員からのアドバイスもあり、樹勢を保つために萌芽枝の切除等は行わず、しばらくこのままの状態を生育を見守ることとし、萌芽した枝が太くなれば伐る行為を繰り返しながら、台場クヌギとして管理していくことになります。



【写真－3 被陰木伐採前】



【写真－4 被陰木伐採後】

（3） ニホンジカ被害対策

箕面国有林を含む北摂地域では、ニホンジカによる下層植生の採食で、林床の草がなくなる等影響が出ています。当該地では、植栽箇所を保護するため、既設防鹿柵の点検・修理を行いニホンジカの侵入の未然防止に取り組んでいます。

本年度は、点検で発見したネットの破れの補修等を行いました。このようなメンテナンスの結果、今のところニホンジカが入った痕跡はありません。引き続き工夫しながらニホンジカの侵入防止に取り組んでいきます。



【写真－5 防鹿柵の点検・補修】

(4) 植生・昆虫相調査及び成長量調査

ア 植生及び昆虫相調査

今年度は、株式会社「里と水辺研究所」と委託契約（7月1日付け）を締結し、7月16日（木）、8月3日（月）、8月4日（火）、9月1日（火）、9月23日（水）に植生調査、7月16日（木）、9月1日（火）に昆虫相調査を行いました。

植生調査は、継続的に調査を実施している防鹿柵内の定点プロットの2箇所（1-1、1-2地点、1箇所当たり100㎡）及び防鹿柵外の定点プロット2箇所（2-1、2-2地点、1箇所当たり100㎡）でモニタリング調査を行ったほか、「箕面体験学習の森」整備事業エリアの防鹿柵内で、植物相調査を行いました。

昆虫相調査は、同エリア内全域において、歩道及び踏み跡などを踏査し、目の届く範囲内で目視確認した昆虫類等の調査を行いました。

植生調査については、平成20年から継続的に実施している箇所で、伐採前の植生状況、伐採後にクヌギ、コナラ、エドヒガンなどの植栽を行い、その後の経過などの推移を観測してきています。委託業務ではこれまでのデータの解析も併せて行い、報告書としてとりまとめました。これらの解析データも含めて植生調査箇所も森林環境教育の題材として活用していくこととしています。



【写真－6 植生調査
(定点プロット調査)】



【写真－7 昆虫相調査】

Ⅰ 自然再生の取組

(ア) 植栽木の経年変化による調査結果

植栽木の平均高は、平成 25 年度と比較すると、地点 1 - 1 で約 159cm、地点 1 - 2 で約 111cm 増加しました。

また、令和 2 年度時点の植栽木全体の平均高は、地点 1 - 1 で約 195cm(昨年度比 + 6 cm)、地点 1 - 2 で約 151cm(昨年度比 + 12 cm)に達しています。

地点番号	調査年度	アベマキ			クヌギ			コナラ			全体		
		本数	平均高 (cm)	最大高 (cm)	本数	平均高 (cm)	最大高 (cm)	本数	平均高 (cm)	最大高 (cm)	本数	平均高 (cm)	最大高 (cm)
1-1	H25	6	35.0	60	3	26.7	30	34	36.2	80	43	35.3	80
	H26	7	47.9	105	3	43.3	50	34	57.2	135	44	54.8	135
	H27	7	89.3	180	3	51.7	55	34	90.1	200	44	87.4	200
	H28	8	106.9	260	3	78.3	90	34	118.2	260	45	113.6	260
	H29	7	135.0	320	3	90.0	130	34	142.2	320	44	137.5	320
	H30	8	143.1	360	4	108.8	160	32	204.8	450	44	184.9	450
	R1	7	172.9	390	4	85.0	140	33	203.9	530	44	188.2	530
	R2	8	164.4	390	4	93.8	140	34	213.4	580	46	194.5	580
	変化量※	2	129.4	330	1	67.1	110	0	177.2	500	3	159.1	500
1-2	H25	5	42.0	50	12	32.9	50	2	75.0	80	19	39.7	80
	H26	6	48.3	75	10	41.0	70	2	97.5	115	18	49.7	115
	H27	6	62.5	100	11	56.4	100	2	132.5	150	19	66.3	150
	H28	6	95.8	145	11	70.5	110	2	190.0	210	19	91.1	210
	H29	6	109.2	185	9	85.6	135	2	255.0	280	17	113.8	280
	H30	6	124.2	210	10	94.0	150	2	270.0	330	18	123.6	330
	R1	4	140.0	220	11	105.5	180	2	320.0	390	17	138.8	390
	R2	4	151.3	220	11	119.1	220	2	325.0	390	17	150.9	390
	変化量※	-1	109.3	170	-1	86.2	170	0	250	310	-2	111.1	310

※平成 25 年度からの変化量

(イ) 植物相の調査結果

110 科 354 種の植物が確認できました。準絶滅危惧種として、エビネの 1 種が確認できました。平成 28～令和 2 年度調査の結果、123 科 444 種の植物を確認しています。

【表 - 2 維管束植物確認種数の経年変化(平成 28～令和 2 年度)】

年度	確認種数			絶滅危惧種※1,※3			外来種※2	
	全体	シカ柵北エリア	シカ柵南エリア	環境省 RL2020	大阪府 RL2014	全体	特定外来生物	生態系被害防止外来種

平成 28 年	302	254	193	0	0	0	1	10
平成 29 年	319	273	201	0	1	1	0	9
平成 30 年	339	305	197	1	2	3	0	8
令和元年	351	311	205	1	2	2	0	8
令和 2 年	354	317	208	1	1	1	0	10
全体	444	401	274	1	3	3	1	15

※1：絶滅危惧種の選定基準は以下のとおり。

環境省 RL2020：「環境省レッドリスト 2020」（環境省、2020）

大阪府 RL2014：「大阪府レッドリスト 2014」（大阪府、2014）

※2：外来種の抽出基準は以下のとおり。

特定外来生物：「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」（環境省、2005）により指定された種。

生態系被害防止外来種：「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」（環境省、2015）掲載種。

（ウ） 当面の保育管理（調査報告書による提案）

防鹿柵北エリアでは、平成 30 年度から、NPO 法人日本森林ボランティア協会の協力及びセンター職員により、アカマツ、ソヨゴ、コブシなどの目標植生種以外の樹木を除伐したことから、植栽木との競合状態はある程度緩和されたが、先駆種などとの競合状態はまだ確認されている。さらに、目標植生種のエゴノキの生育が旺盛となり、植栽木が被圧されていることから、「植栽木以外の樹木の継続的な除伐が必要」との報告がありました。

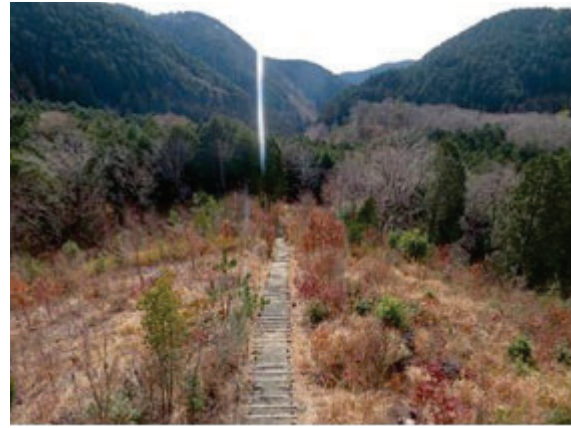
この提案を受けて、ボランティア団体等の協力を得ながら、令和 3 年度も先駆種のヌルデ、アカメガシワ、タラノキ、生育目標樹木でないソヨゴ、コブシなどの除伐及びエゴノキの枝打ちや除伐に取り組みます。

防鹿柵南エリアでは、目標林であるクヌギ、コナラの優占林へ誘導するため、「ソヨゴ、ヒサカキなど照葉樹の除伐が必要」、「アセビは花を楽しむため、歩道沿いに部分的に残す」、「アカマツは歩道沿いに伸びている個体は除伐する」、「急斜面に生育している個体は、林地保全の観点から生育状況及び植栽木への影響を確認の上、対策を講じること」との報告がありました。

この提案を受けて、ボランティア団体等の協力を得ながら、令和 3 年度も、ソヨゴ、ヒサカキなどの照葉樹の除伐に取り組みます。



【写真－8 森林整備実施前】



【写真－9 森林整備実施後】

(エ) 昆虫類の調査結果

10目60科132種の昆虫類が確認できました。「大阪府レッドリスト」で準絶滅危惧種に指定されているオオルリボシヤンマ、ヒメアカネ(写真-10)、ミヤマアカネ、ハンミョウ、ホソバセセリ(写真-11)を確認しました。



【写真－10 ヒメアカネ】
(大阪府：準絶滅危惧)



【写真－11 ホソバセセリ】
(大阪府：準絶滅危惧)

目名	生息状況の概要
コウチュウ	<ul style="list-style-type: none"> ・シカの糞が多いことを反映して、今年度もセンチコガネが確認されたが、以前と比較すると、個体数は少ない印象であった。 ・以前はよく確認できたオオヒラタシデムシが確認できなかった。 ・樹液のしみ出しているクヌギやコナラなどに、カナブン、ヨツボシケシキスイなどが集ま

	<p>っているのを確認した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クワガタ類については、ミヤマクワガタ（写真7）、スジクワガタを確認した。
チョウ	<ul style="list-style-type: none"> ・モンキアゲハ、ジャノメチョウ、ホシミスジ（写真8）など、樹林周辺で見られるチョウ類が目立った。 ・大阪府レッドリスト 2014 において準絶滅危惧に指定されているホソバセセリを確認した。
ハチ	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者に危険をおよぼす可能性のあるスズメバチ類として、オオスズメバチ、コガタスズメバチ、ヒメスズメバチを確認した。 ・オオスズメバチは、樹液のしみ出ているクヌギ、コナラ、アラカシ周辺で確認した。 ・アシナガバチ類については、セグロアシナガバチ、コアシナガバチのみ確認できた。

イ 植栽木の成長量調査

平成 24 年度の「箕面体験学習の森」整備事業（Ⅲ）検討委員会において、伐採跡に植栽してきたクヌギ、コナラ、エドヒガンなど、代表的な樹種について成長量調査を行うことが検討され、平成 25 年 3 月以降毎年落葉後、成長が休止した時期に、植栽木の根元径と樹高の計測を行ってきました。

今年度は、12 月 10 日（木）、センター職員により調査を行いました。特徴として、昨年と同様にエドヒガン(グラフ-1、2、写真-12)の成長が早く、1 成長期で 120cm 樹高が伸びて、根元径も 32 mm 増加した調査木もあり、他の樹種と比べ成長に顕著な差がみられます。主な理由として、親木である個体も現地で良好な成長をしていたこと、気候や土壌が適していたものと推測されます。クヌギ(グラフ-3、4、写真-13) やコナラについては、緩やかな成長で推移していますが、NPO 法人日本森林ボランティア協会の協力によりアカマツなどを除伐したことで、成長が良くなっている個体も見られました。今後も継続して調査を行いデータの蓄積をしながら経過観察していくこととしています。

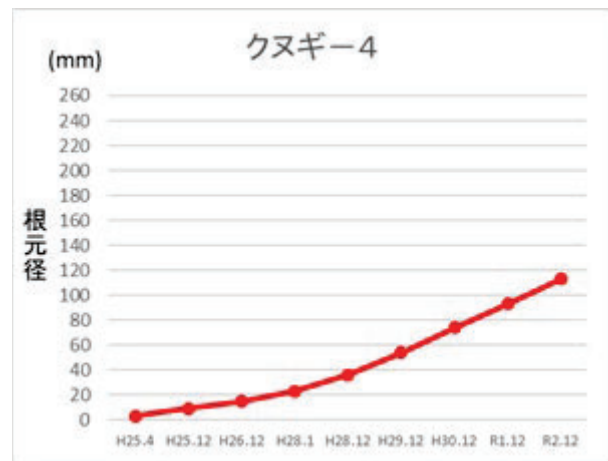
なお、エドヒガンの植栽木について、樹冠が接しており、枝を張る空間が不足しているため、成長が劣っている個体の間伐や移植の検討、灌木のクサギの除伐が必要との植生調査等報告に基づき、8 月 21 日（金）に灌木の除伐、12 月 1 日（火）にエドヒガン 3 本の間伐を行い、その枝は草木染め体験イベント用材料に利用しました。今後は、成長が劣っている個体の間伐は、間伐木の利活用を鑑みながら数年間で実施するとともに、移植可能な個体については、細根の発生を促すための根切りを事前に行ってから移植を行う予定です。



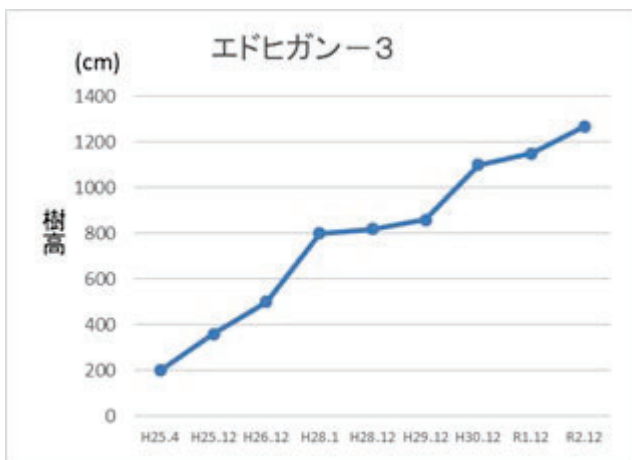
【写真-14 エドヒガン間伐】



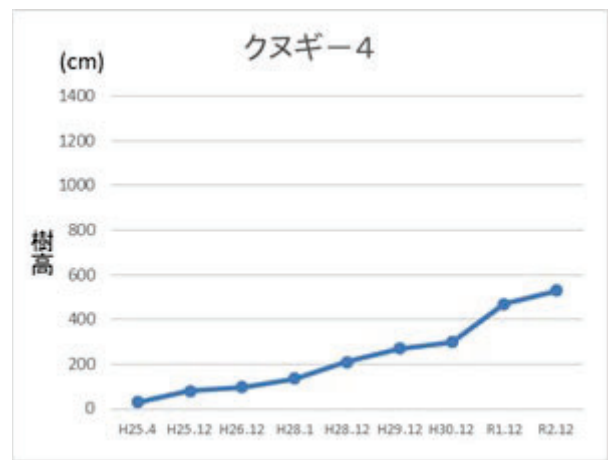
【グラフ-1 エドヒガン経年変化 (根元径)】



【グラフ-3 クヌギ経年変化 (根元径)】



【グラフ-2 エドヒガン経年変化 (樹高)】



【グラフ-4 クヌギ経年変化 (樹高)】



【写真-12 エドヒガン-3】



【写真-13 クヌギ-4】

【表－４ 成長量調査比較表】

「オオクワガタの棲める森づくり」植栽箇所 成長量比較表

場 所： 箕面国有林273よ林小班
 調査日：(初回) 平成25年 4月11日(木)
 (H25成長量調査) 平成25年12月16日(月)
 (H26成長量調査) 平成26年12月 2日(火)
 (H27成長量調査) 平成28年 1月21日(木)
 (H28成長量調査) 平成28年12月 8日(木)
 (H29成長量調査) 平成29年12月 5日(火)
 (H30成長量調査) 平成30年12月10日(月)
 (R1 成長量調査) 令和 元年12月11日(水)
 (R2 成長量調査) 令和 2年12月10日(木)

樹種名 (植栽年月日)	No.	根元径(mm)										樹高(cm)								備考
		H25.04	H25.12	H26.12	H28.1	H28.12	H29.12	H30.12	R1.12	R2.12	H25.04	H25.12	H26.12	H28.1	H28.12	H29.12	H30.12	R1.12	R2.12	
イロハモミジ	イロハー1	5	6	10	16	20	23	26	27	27	41	110	170	265	320	400	440	460	460	
イロハモミジ	イロハー2	2	4	5	8	11	13	16	19	23	32	89	120	107	200	230	240	260	300	先折れ(H28.1)
エドヒガン (H23~24補植)	エドー1	3	6	11	22	36	48	60	77	94	39	84	133	178	320	400	500	600	650	先端にシカ食害のため枯損あり(H25.04)
エドヒガン (H23~24補植)	エドー2	3	9	17	33	46	50	72	80	97	32	104	268	380	560	700	820	880	930	先端にシカ食害のため枯損あり(H25.04)
エドヒガン (H23.5.29)	エドー3	27	59	78	97	140	149	200	220	253	200	360	500	800	820	860	1100	1,150	1,270	
エドヒガン (H23.5.29)	エドー4	14	37	58	86	103	113	132	135	140	140	270	410	700	720	760	500	520	500	先折れ(高さ340cm) (H30.12)
エドヒガン (H23.5.29)	エドー5	10	25	44	74	84	91	120	150	166	125	210	310	420	600	680	780	880	950	
ヤマザクラ (H23.12.11)	ヤマー1	2	4	5	6	8	12	15	19	25	40	33	37	70	130	150	190	240	270	先折れ(H25.12) 先折れ(H26.12)
クスギ (H22.5.9)	クスー1	11	19	23	27	32	36	39	42	48	64	109	123	135	180	230	280	310	360	
クスギ (H22.5.9)	クスー2	12	27	31	35	53	59	67	85	91	86	146	183	242	380	410	430	470	500	
クスギ (H23~24補植)	クスー3	4	10	14	19	29	41	49	57	61	42	97	115	150	240	270	320	340	350	
クスギ (H23~24補植)	クスー4	3	9	15	23	36	54	74	93	113	30	81	97	135	210	270	300	420	530	
クスギ (H23~24補植)	クスー5	2	8	9	20	27	43	53	67	78	38	56	70	115	150	230	290	370	480	
コナラ (H22.3.23)	コナー1	7	14	18	25	26	38	40	42	44	68	84	100	160	180	240	260	300	330	カミネコン菌(H25.04)
コナラ (H22.3.23)	コナー2	9	18	25	33	44	54	66	78	88	149	178	184	200	230	300	420	500	540	先枯れ(H26.12)
コナラ (H22.3.23)	コナー3	7	10	13	18	19	20	23	26	27	90	70	110	130	150	180	200	210	230	※下刈り時折損(H25.12) 枯損枝高118cm: +18cm
コナラ (H23.5.29)	コナー4	14	22	33	45	55	70	82	102	114	108	132	170	210	240	280	300	350	410	カミネコン菌(H25.04)
コナラ (H23.5.29)	コナー5	10	21	30	38	45	54	60	67	76	94	110	180	230	260	270	280	290	350	

(5) 昆虫ベッドの整備

カブトムシなどの昆虫の生育出来る森林環境教育施設整備の一環として、令和元年度に特定非営利活動法人NPOクワガタ探検隊、きんきちゅうごく森林づくりの会と連携し、防鹿柵北エリア内に昆虫ベッドの設置を行いました。

今年度は、昆虫ベッドの土の入れ替え整備を実施しました。また、森林ふれあい推進事業の「カブトムシ里親まつり」の開催によりカブトムシの放虫を行ったことに加え、自然発生したカブトムシの幼虫も多数確認されたことから、今後多数のカブトムシの発生が期待されるところです。



【写真-15 昆虫ベッドの土入れ替え】



【写真-16 カブトムシ里親まつり】

(6) 特定外来生物ウシガエルの駆除

「箕面体験学習の森」内の花の谷には、トノサマガエル（環境省・大阪府準絶滅危惧種）やシュレーゲルアオガエル（大阪府準絶滅危惧種）、モリアオガエル等の貴重な生物の生息が確認されています。一方で、特定外来生物のウシガエルも生息しており、口に入る大きさの動物であれば幅広く捕食することから、センターでは、「明治の森箕面自然休養林管理運営協議会」と連携してウシガエルの捕獲・駆除を行っています。今年度は、ウシガエル 167 個体（オタマジャクシ 131 個体、成体 36 個体）の捕獲・駆除を実施しました。次年度以降も、貴重な生物の生息環境を維持するため、継続的に取り組んでいきます。



【写真-17 トノサマガエル】



【写真-18 シュレーゲルアオガエル】



【写真-19 アナゴカゴ】



【写真-20 ウシガエル】

(7) 森林環境教育での活用

里山再生の取組として、「オオクワガタの棲（す）める森づくり」整備事業を行っていますが、その整備の過程や場所を森林環境教育及び同教育プログラムの開発に活用していくこととしています。

このため、区域内では森林環境教育に活用可能となる各種の学習ポイントを設定し、小学生を対象とした森林環境教育を行っています。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響や悪天候により大半が実施できませんでしたが、令和3年度は教育機関と連携しながら実施していきます。なお、新しい生活様式に対応した森林環境教育の実践や悪天候でも実施可能な森林環境教育プログラムの作成についても取り組んでいくこととしています。

ア 学習ルートの整備

「箕面体験学習の森」学習ルートは、小学生による森林環境教育や一般入山者にも広く利用できることを目的に、平成 27 年度に新設しています。歩道の延長は約 660m（展望台周辺約 430m、長谷約 230m）で、急傾斜地には木製の階段を設置する等、利用者が歩行しやすいように整備しています。

今年度は、探検ポイントの歩道の刈り払いや枯れ枝の除去を実施しました。

11 月 30 日（月）には、きんきちゅうごく森林づくりの会と連携し、テキサスゲート入り口の踏み台を補修しました。

また、新たな学習ルート「百人一首コース」の設定に向け、百人一首で詠まれている植物の選定や中高生向けの学習エリア拡充に向けた現地踏査も実施しました。次年度以降も、新しい探検ポイントの充実など更なる学習ルートの整備に取り組んでいくこととしています。



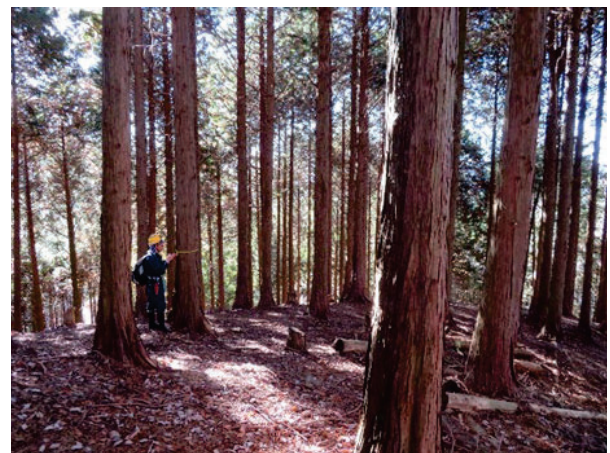
【写真-21 テキサスゲート補修作業】



【写真-22 テキサスゲート補修後】



【写真-23 百人一首コース選定】



【写真-24 学習エリア拡充踏査】

(8) 広報・普及活動

各種イベントへの出展、近畿中国森林管理局1階ギャラリーの活用等により、「箕面体験学習の森」、「オオクワガタの棲(す)める森づくり」、「ニホンジカによる食害対策」などの広報・普及活動を行いました。

ア みのお2020生物多様性フォーラム(10月18日(日))

イ Y M C A 高等学院の出前授業(11月11日(水))

ウ 近畿大学の国有林視察受け入れ(11月26日(木))

エ M B S ラジオ放送「ありがとう浜村淳です」に出演 紙芝居「雨水のぼうけん」をP R(12月31日(木))

オ 農林水産省「消費者の部屋」パネル展示(12月7日(月)~11日(金))

カ 近畿中国森林管理局「森林(もり)のギャラリー」パネル展示(2月2日(火)~25日(木))



【写真-25 近畿大学の国有林視察】



【写真-26 M B S ラジオ放送出演】

(9) 「箕面体験学習の森」育成・活用事業(II)検討委員会

【表-5 委員・部会委員名簿】

氏名	所属・職名	委員会	整備 部会	利活用等 検討部会
近藤 万理	非営利活動団体 vitalink 代表	○		
齋藤 和彦	森林総合研究所 関西支所 森林資源管理研究グループ長	○	○	○
高島 文明	NPO 法人みのお山麓保全委員会 事務局長	○		○
萩原 憲二	大阪青山大学 健康科学部 子ども教育学科 教授	○		
服部 保	兵庫県立大学 名誉教授	◎	◎	
宮川 直之	箕面市教育委員会 子ども未来創造局 教育センター 指導主事	○		○
山下 宏文	京都教育大学 社会科学科 教授	○		◎
山本 博	NPO 法人日本森林ボランティア協会 事務局長	○		
委員会・部会オブザーバー				
穂積 佳子	大阪府北部農と緑の総合事務所 みどり環境課長	○	○	○

※(五十音順、敬称略 ◎は座長及び部会長)

ア 第1回検討委員会

8月26日(水)、箕面国有林において開催し、令和2年度「箕面体験学習の森」育成・活用事業(II)の実施計画について検討頂きました。各委員からは、防鹿柵、台場クヌギの育成、エドヒガンの間伐、中高生向けの学習エリア拡大、森の探検隊「森の動物探検コース」の選定などについて、御意見等を頂きました。



【写真－27 台場クスギの育成状況確認】



【写真－28 森の動物探検コース選定】

イ 第2回検討委員会

新型コロナウイルス感染症の影響により令和3年3月に書面開催で実施し、令和2年度「箕面体験学習の森」育成・活用事業（Ⅱ）の実施結果について報告を行いました。

各委員からは、森林環境教育、防鹿柵、「オオクワガタの棲（す）める森づくり」に向けた森林整備、植生等調査、成長量調査、昆虫ベッド、ウシガエルの駆除、「箕面体験学習の森」の活用などについて御意見等を頂きました。

2 箕面国有林におけるニホンジカ被害対策

(1) 取組の背景・目的

近年、全国的にニホンジカの急速な個体数の増加や生息域の拡大により、農林業はもとより森林生態系に甚大な被害を及ぼしており、個体数を適正規模に管理することが喫緊の課題となっています。環境省が調査した、平成元年度～令和元年度の捕獲数等から全国の個体数推定を行った結果では、令和元年度末で約189万頭（中央値）となり、平成26年度以降は減少傾向が継続しています。

しかしながら、昭和53年度から平成30年度までの40年間で、ニホンジカの分布域は約2.7倍に拡大していることが示され、全国的にニホンジカの分布域が拡大していることが分かりました。

箕面森林ふれあい推進センターの活動フィールドである大阪府箕面市の箕面国有林においても例外ではなく、ニホンジカが樹木の皮を剥ぎ、下層植生を食べてしまう等の被害が継続しています。このまま森林生態系が衰退し下層植生のない裸地へ移行すると、土壌の流出が進み土砂災害等のリスクが高まることも危惧されています。

このため、箕面国有林におけるニホンジカの被害防止対策を効果的に実施できるよう、当センターなど行政機関や市民団体で構成する「明治の森箕面自然休養林管理運営協議会」において基本的な方針を定め、地域一体となって対策に取り組んでいます。



【写真－1 皮剥の状況（天上ヶ谷）】



【写真－2 エキスポの森に隣接する
民有林の状況（鉢伏山）】

(2) 事業内容

ア ニホンジカ捕獲等事業

(ア) 事業の目的

ニホンジカを適正頭数に導くため、ワナ猟（くくりワナ、首用くくりワナ、箱ワナ）による捕獲を実施しました。

なお、令和2年度は、元年度に引き続き小林式誘引捕獲、小型囲いワナ「こじゃんと1号」による捕獲を試行しました。

事業実施期間：令和2年7月14日（火）～令和3年2月26日（金）

(イ) 捕獲実施場所

箕面国有林 267、268、269、270、272、273、274、275、276、277 林班

(ウ) 捕獲状況

ニホンジカ 70 頭、イノシシ 10 頭 計 80 頭



【写真－ 3 くくりワナ】



【写真－ 4 首用くくりワナ】



【写真－ 5 箱ワナ】



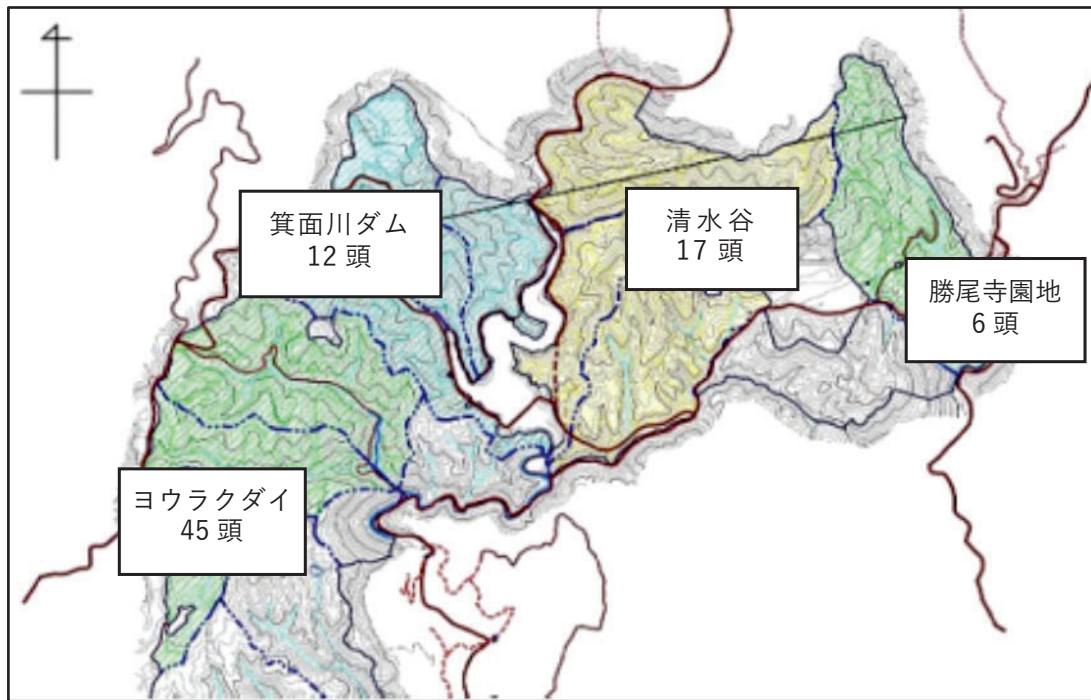
【写真－ 6 小型囲いワナ「こじゃんと1号」】



【写真ー 7 くくりワナによる捕獲状況】



【写真ー 8 箱ワナによる捕獲状況】



【図－ 1 捕獲場所別捕獲頭数】

罾 (わな)	オスジカ		メスジカ		オスイノシシ		メスイノシシ		計
	成獣	幼獣	成獣	幼獣	成獣	幼獣	成獣	幼獣	
箱罾	2頭	1頭	2頭	1頭	1頭	1頭	1頭	1頭	10頭
くくり罾	29頭		33頭	1頭	5頭		1頭		69頭
首用くくり罾			1頭						1頭
合計	31頭	1頭	36頭	2頭	6頭	1頭	2頭	1頭	80頭

【表－ 1 罾(わな) 別捕獲頭数】

イ モニタリング調査

(ア) 調査の目的

ニホンジカの生息状況等を把握し、効率的かつ効果的な被害の防止と野生鳥獣との共生に向けた取組に資することを目的として、箕面地域の関係機関と連携しながらモニタリング調査を行っています。

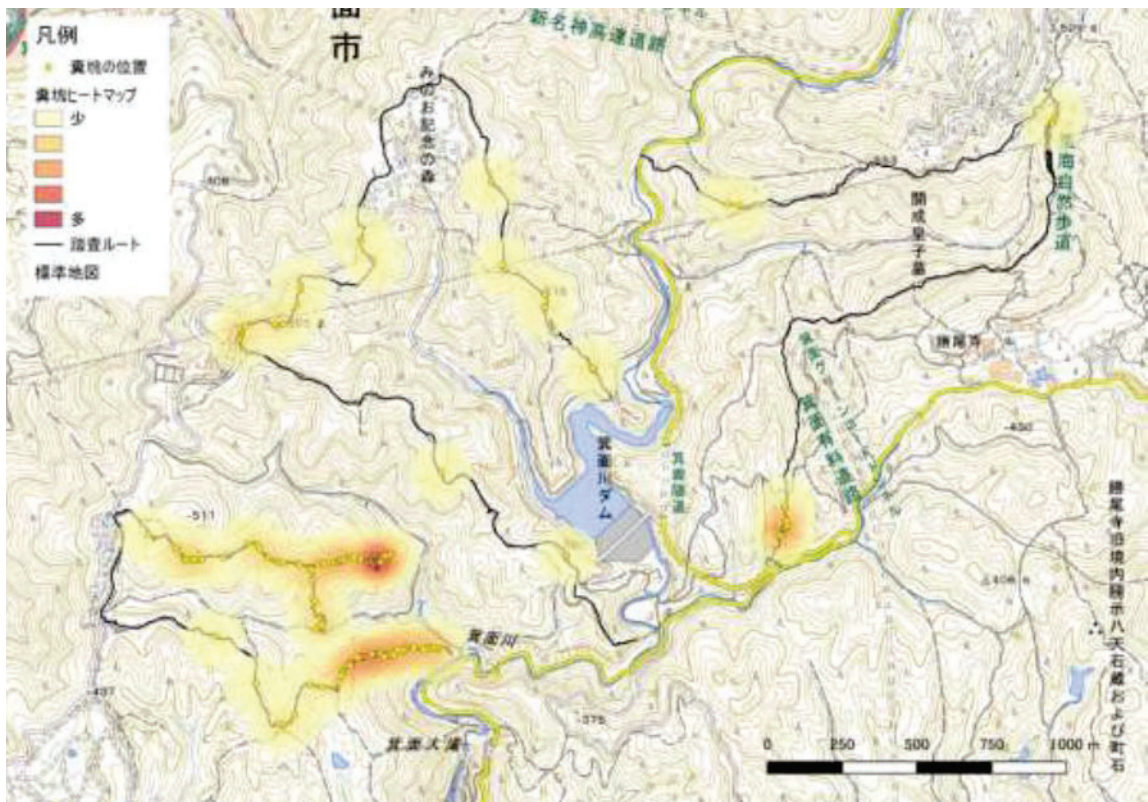
(イ) 調査対象地

箕面国有林 267、268、269、270、272、273、274、275、276、277 林班の調査区域内

(ウ) モニタリング調査業務の内容

a 糞隗密度調査

箕面国有林の主要な尾根部を左右幅 1 m (計 2 m) の範囲で踏査し、10 粒以上の糞塊の位置とルート別の個数を調査しました。



【図一 2 確認された 10 粒以上糞塊の位置】

ルートNo	10粒以上糞塊数	距離 (km)	糞塊密度 (個/km)
1	20	5.15	3.89
2	17	4.17	4.08
3	107	3.53	30.31
合計	144	12.85	11.21

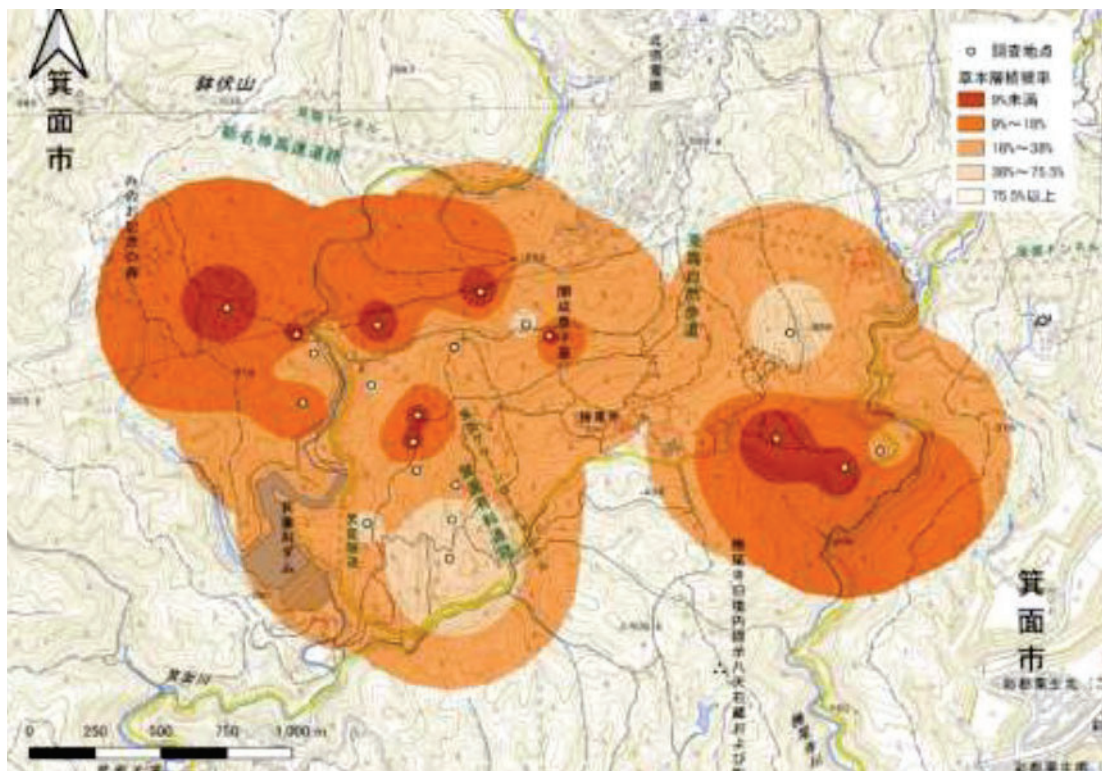
【表- 2 ルート別の糞塊密度】

結果

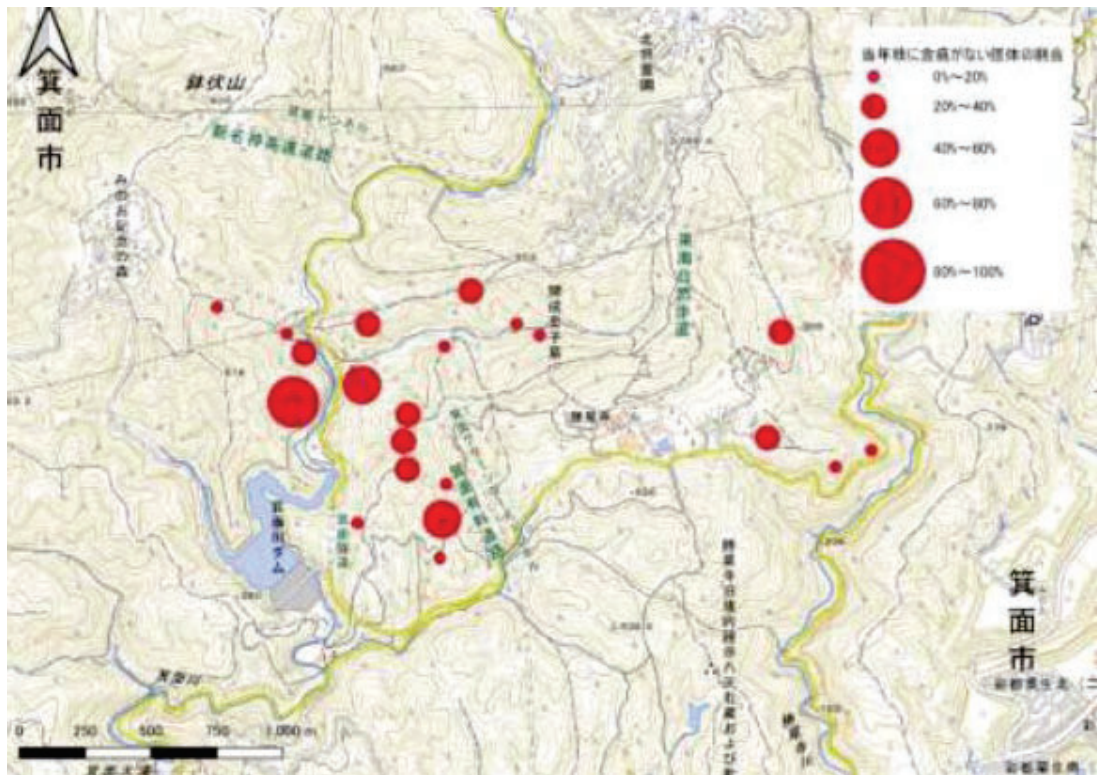
- ・箕面国有林全体ではシカの糞塊が少なかったが、一部の地域に糞塊が集中していた。
- ・国有林全体では、糞塊密度が 11.21 個/kmであった。

b ニホンジカによる森林植生衰退状況調査

箕面国有林のシカの影響を広域で把握することを目的に、箕面国有林の東部地域において森林植生衰退状況調査と食痕履歴法による調査を行いました。



【図- 3 草本層植生率の IDW 法による空間補間】



【図ー 4 毎年採食されていながらも当年枝に食痕が無い個体の割合】

結果

- ・ 調査は 21 地点で実施し、草本層の植被率が低い地域が道路等から少し離れた地域に多かった。
- ・ 清水谷周辺など捕獲が進んでいる場所では、草本層の植被率が高い傾向が見られた。
- ・ 食痕履歴法により、過去は毎年採食されていたにもかかわらず、今年シカによる採食がなかった樹木が確認された。
- ・ 今年シカの採食を受けなかった樹木の割合が多かったのは、清水谷および箕面川ダム周辺で確認され、捕獲の効果が表れていることが示唆された。

c 固定プロット森林影響調査

森林植生衰退状況調査を実施した調査地のうち、衰退度の高い林班、中庸の林班、低い林班別の12カ所において固定プロットを設置し、多様性植生調査法を実施しました。

植生タイプ		スギ・ヒノキ人工林	落葉広葉樹林
調査区数		8	4
高さ(m)	高木層	21.0±2.14	23.0±1.15
	亜高木層	10.0	13.5±1.29
	第一低木層	4.8±1.48	5.8±0.96
	第二低木層	1.5±0.45	1.9±0.25
	草本層	0.3±0.20	0.3±0.21
植被率(%)	高木層	93.1±10.33	67.5±17.08
	亜高木層	0.1±0.35	86.3±17.02
	第一低木層	11.3±16.64	33.8±19.74
	第二低木層	9.0±9.68	6.5±5.97
	草本層	9.4±9.72	1.3±2.46

【表ー 3 植生タイプ別の平均階層高、植被率】

植生タイプ		スギ・ヒノキ人工林	落葉広葉樹林
調査区数		8	4
林冠木平均DBH		27.9±6.0	32.3±11.6
林冠木平均密度(100m ²)		9.1±2.2	2.8±1.7
平均出現種数(全体)		36.8±9.7	26.3±10.7
高木層		1.5±0.5	2.0±0.8
亜高木層		1.0	4.8±1.0
第1低木層		1.4±0.9	3.3±1.3
第2低木層		3.2±1.5	1.8±1.0
草本層		31.9±9.8	14.5±12.2

【表ー 4 植生タイプ別の平均胸高直径(DBH)、平均密度、平均出現種数】

結果

- ・シカの影響が顕著にでる第2低木層と草本層において、植被率が低く、さらに出現種数は極めて少なく、シカの影響が深刻であることが示唆された。

d 箕面国有林におけるニホンジカ個体数管理指針作成に向けたデータの整理

箕面国有林においては、林業被害対策および植生への影響の低減を目的に平成26年度から捕獲を進め、近年では地域の関係団体の調査から清水谷において植生の回復が見られると報告されています。

ニホンジカを適正頭数に導くためには、捕獲の効果測定及び被害状況を踏まえた捕獲目標を設定する必要があり、科学的根拠に基づいたニホンジカの個体数管理を実行することが重要です。

このため、今後のモニタリング調査においては、箕面国有林におけるニホンジカ個体数管理指針を作成するためのデータの収集・整理に主眼を置いた調査を実施することとしています。

内容	目的	データの種類	データの内容
捕獲 生息 数動 の向 把と 握	個体数推定	狩猟・有害などによる捕獲情報	捕獲数・捕獲地点・捕獲効率・目撃効率
		生息密度指標	センサーカメラ調査による撮影頻度 糞塊密度調査
		行動圏の把握	箕面国有林および周辺地域を利用するシカのGPSテレメトリー調査
被害 状況 の把 握	シカの許容生息	林業被害	被害率調査
		植生被害	衰退状況調査、多様性調査
		国土保全	土壌流出の状況把握

【表－5 収集すべきデータの種類】

(エ) 情報交換会

箕面市域のニホンジカの効率的かつ効果的な被害防止対策の推進のため、情報を共有する情報交換会につきましては、今年度は、新型コロナウイルスによる緊急事態宣言を受け、当センターが実施したモニタリング調査資料を令和3年2月に関係各団体へ送付しての書面開催としました。

主な意見等

- ・ 今後も調査を継続してもらいたい。
- ・ 糞隗密度調査や植生衰退状況調査は調査結果の共有など検討してもらいたい。
- ・ 国有林と周辺地域について、調査の分担を検討し効率的に調査を実施して頂きたい。

(3) 普及・広報

ア 大阪ハンティングアカデミー

公益社団法人大阪府猟友会の令和2年度狩猟者養成スクール「大阪ハンティングアカデミー」の入校式（7月18日（土））が、受講生ほか猟友会及び当局、大阪府、大阪府警など70名余りの出席のもと、大阪府咲洲庁舎において行われました。

本年度は、第5期生の55名が受講し、箕面森林ふれあい推進センターは、森林の機能やニホンジカによる森林被害の現状、捕獲者の役割等について3回（8月22日（金）、9月4日（金）、10月2日（金））の講義を実施しました。



【写真-9 大阪ハンティングアカデミー】

イ 生物多様性研究フォーラム 2020

10月18日（日）、箕面市の箕面文化・交流センターにおいて、「みのお山とみどりのフェスティバル 生物多様性研究フォーラム」が開催されました。このフォーラムには、箕面市民外66名が参加しました。

第1部の「生態系に大きな影響を与えているシカの生息状況と被害防止対策について」において、当センターから、箕面国有林におけるシカ被害防止対策として、「シカ捕獲事業の実績」や「近畿中国森林管理局職員が開発した『小林式誘因捕獲法』、四国森林管理局が開発した小型囲いワナ『こじゃんと1号』の試行など効率的な捕獲の取組」等について報告しました。その後、参加者と発表者を交えて「全体ディスカッション」が行われました。



【写真-10 生物多様性フォーラムで発表】

1 教員向け研修

(1) 森林環境教育研修

森林のもつ多様な機能について体験活動を通じて学び、理解を深める環境教育学習は、子どもたちの「生きる力」を育むうえでも大変有効であることから、森林を活用した環境教育の理解を深め、学校等教育機関での実践・普及を図っていくことを目的として、箕面市教育委員会と連携し、教員等を対象とした森林環境教育の研修を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響から、今年度は中止となりました。

(2) 「森の探検隊」教員研修

箕面国有林「エキスポの森」内で取り組んでいる「オオクワガタの棲（す）める森づくり」等のフィールドを活用して、ポイントを回りながら自然に関する設問を解いていく学習プログラム「森の探検隊」を箕面森林ふれあい推進センターで開発し、箕面市内の小学生に体験してもらっています。

この「森の探検隊」プログラムについて、小学生の指導的立場である多くの教員にも知ってもらい、その活用と充実を図ることを目的として、本年度も箕面市教育研究会理科部会と共催で予定していましたが、

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響によって、4～5月に学校が休校となり、7月末まで授業となったことから、例年7月下旬に実施していた研修が日程的に困難となったので、今年度は中止となりました。

(3) 創作紙芝居「雨水のぼうけん」を作成・公表

森林環境教育の教材等として教育関係者や一般の方々にも広く利用いただけるよう、令和3年7月に紙芝居『雨水のぼうけん』デジタル版を近畿中国森林管理局ホームページ上で公開しました。

当センターの職員が制作したこの紙芝居は、主人公が雨水になって森に降り注ぎ冒険しながら、水のおいしさの秘密を知るストーリーで、各地の森林教室などで使われています。



【写真－1 紙芝居雨水のぼうけん】



【写真－2 金沢市での使用事例】

(4) 森林環境教育手引書改訂の取組

森林環境教育を推進するためには、学習指導要領に対応した森林・林業に関連する指導内容を明確にすることが重要であることから、平成24年3月に森林環境教育手引書〈小学校編〉を作成し、配布してきました。ところが、平成29年3月に学習指導要領が改訂され、令和2年度から小学校において全面実施となったことで同手引書を改訂する必要が出てきました。

このことから令和3年1月に教育関係者を外部委員とする森林環境教育手引書改訂検討委員会を設置し、令和3年3月15日(月)に第1回の改訂検討委員会をウェブ方式で開催しました。同委員会では、編集方針の検討、教科別の方向性の検討、今後ほかのスケジュールの確認を行いました。

令和3年度中の改訂手引書完成を目標に、複数回の改訂検討委員会を開催する予定です。

【表－1 改訂検討委員会名簿】

氏名	所属・職名
山下 宏文	京都教育大学 社会科学科教授
波多野 達二	佛教大学 教育学科准教授
平岡 信之	京都教育大学附属 桃山小学校教諭
新宮 濟	奈良市立 平城小学校教諭
國廣 幸一	箕面市立 箕面小学校教諭

※ (敬称略)



【写真一 3 手引書改訂検討委員会】



【写真一 4 ウェブ方式での実施】

(5) 研修受講生への追跡アンケートの実施

今後の実施に向けて箕面市教育委員会と調整を行っていきます。

2 森林環境教育プログラム「森の探検隊」の開発と実践

(1) 「森の探検隊」とは

森の中に25箇所ほど設定されているポイントを5～7名の班で巡回し、各ポイントごとに出題される指令（問題）を班の全員で考え、答え等を導き出したり、デジカメで撮影したり、森の不思議について楽しく体験しながら学習できる森林環境教育プログラムです。体験後は、学校で問題や撮影した写真などについて、資料等で調べたりして探検ノートを補完することで更に理解を深めることができます。

「森の探検隊」では、子どもたちが学びたいと思うポイントを自分達で選び、問題に対する答え等を導き出していくことにより、理科・社会・算数・国語・道徳などを総合的に学ぶことができます。

なお、今年度は、9月に計画していた箕面こどもの森学園の実施は雨天で中止、箕面市教育委員会と連携した豊川北小学校の実施は、新型コロナウイルス感染症の影響から中止となりました。

来年度には新型コロナウイルス感染症対策を万全に行って複数校の小学校で実施できるよう、箕面市教育委員会と打ち合わせを行っています。



【図-1 探検マップ（イラスト）】



【図-2 探検マップ（番号とポイント名）】

(2) モデルコースの選定

モデルコースの選定について、有識者の助言指導を頂きながら取組んでいます。
なお、モデルコースが完成したら、来園者が手軽にダウンロードしやすいよう、センターホームページに「森の探検隊」のQRコード、地図、指令書、ヒント、標準解答例などの掲載に取り組むことにしています。

ア 森の動物探検コース

同コースを想定した雨天時用のパワーポイント作成に着手しました。来年度は完成に向けて取り組むことにしています。

イ 百人一首コース選定

同コースの選定を行うにあたり、11月5日（木）に現地踏査を実施しました。
踏査では、百人一首で詠まれている植物の生育箇所の確認、樹種の判別、ポイント箇所を考慮しながら選定を行いました。来年度は一部樹種名が特定できない箇所もあることから、開花時期等に再度踏査を行って樹種名を判別し、検討委員会等の有識者に説明を行い、助言指導を頂きながらコースの選定を行っていきます。

(3) エリア拡充踏査

中高生向けの学習エリア拡充に向けて、12月4日（金）、箕面国有林273林班ろ1小班、12月9日、273林班い、は1、か小班を踏査しました。

その結果、ヒノキ・スギ人工林（38年生から65年生）が主体の林分で、下層植生はニホンジカの採食により非常に乏しい状況にあったことなどから、特色のある新たなポイントは非常に少ない状況でした。

また、この踏査箇所は、令和6年度までには間伐等を行い育成複層林に誘導することが計画されており、間伐見本林等の設定に向けて、京都大阪森林管理事務所と打ち合わせを行うことにしています。

1 森林ふれあい推進事業

「国民の森林」として、森林での環境教育活動や体験活動など国民の福祉の増進等に寄与する活動として、森林への関心・理解を高めることを目的に、森林ふれあい推進事業を実施しています。箕面国有林での事業実施団体を募集し、特定非営利活動法人NPOクワガタ探検隊と協定締結を行い、箕面森林ふれあい推進センターとの共催による事業を行いました。

(1) カブトムシ里親まつり（特定非営利活動法人NPOクワガタ探検隊）



【写真－1 創作紙芝居】



【写真－2 森林散策】

特定非営利活動法人NPOクワガタ探検隊は、箕面国有林エキスポ'90 みのお記念の森で、「カブトムシ里親まつり」を10月11日(日)に開催しました。

今年度の「カブトムシ里親まつり」は、箕面国有林に設置した昆虫ベッドにいる幼虫を探しだし、参加者にオス、メスの幼虫ペア（それ以外を放虫）を渡して成虫になるまで飼育してもらい、その成虫が産卵して幼虫になったら、箕面国有林に放虫するイベントです。

当日は、4家族、15名の参加者（大人7名、子ども8名）とスタッフ6名が参加しました。参加者からは、「大都市（大阪府）の近くにカブトムシがいることに驚いた。」、「カブトムシの幼虫に初めてさわった。」、「カブトムシの幼虫は大きい。」、「幼虫は柔らかくてプヨプヨしていると思ったが、案外固かった。」などの感想があり、幼虫ペアがカブトムシになって産卵するまで飼育することを家族で誓い、楽しい一日を過ごして頂きました。



【写真－3 カブトムシの幼虫探し】



【写真－4 集合写真】

(2) 水源の森ジオラマづくり

「2020 水都大阪森林の市」などのイベントにおいて、水源の森ジオラマづくりを実施すべく計画準備を進めていましたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、令和2年度のイベントは全て中止となったため、取り組むことが出来ませんでした。

(3) 草木染め体験イベント

「オオクワガタの棲（す）める森づくり」の区域に植えたエドヒガンは、良好な成長により林冠が接している状況にあることから、12月1日（火）に3本の伐採を実施しました。伐採したエドヒガンは、草木染めの染料に利用した草木染めイベント開催により市民への普及・PRに向けた取組を12月13日（日）及び3月7日（日）に計画しましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止としました。

来年度以降も間伐が必要なことから、伐採したエドヒガンは草木染めの染料に利用し、草木染め体験イベントの開催に取り組むことにしています。

2 冊子活用状況

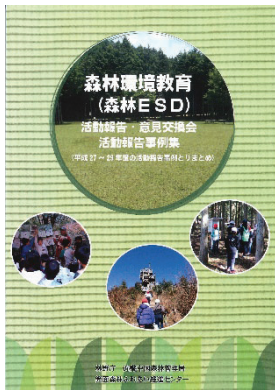
森林環境教育手引書〈小学校編〉・森林環境教育推奨事例集配布状況



森林環境教育手引書
〈小学校編〉



森林環境教育
推奨事例集



森林環境教育
(森林ESD)
活動報告・意見交換会
活動報告事例集



『雨水のぼうけん』絵本版

配布月	府県	配布先	配布物
11月	奈良県	近畿大学	手引書・森林環境教育推奨事例集・森林ESD活動報告事例集 各10部
3月	全国	各関係機関 図書館等	『雨水のぼうけん』絵本版 94冊

3 情報発信

(1) MBSラジオ

矢放係員が創作紙芝居「雨水のぼうけん」について「ありがとう浜村淳です」に出演（12月31日）しました。

(2) 毎日新聞

創作紙芝居「雨水のぼうけん」の記事が滋賀版（11月17日）、京都版（11月21日）、大阪版（11月23日）に掲載されました。

(3) 林政ニュース

- ア 創作紙芝居「雨水のぼうけん」の記事が掲載（8月5日第634号）されました。
- イ 2020生物多様性フォーラムの記事が掲載（11月18日第641号）されました。

(4) 林野庁広報誌「林野」

創作紙芝居「雨水のぼうけん」の記事が掲載（9月号）されました。

(5) 近畿中国森林管理局広報誌『森のひろば』

新作紙芝居『雨水のぼうけん』を作成したことが紹介された。また当センターが教育機関と連携して実施している森林環境教育プログラム『森の探検隊』が紹介（7月号 No.1133）されました。

(6) 近畿中国森林管理局広報誌『森のひろば』

森林の魅力や大切さなどを体験いただくイベントの実践と題して、当センターがイベント実施団体と共催で実施している「森林ふれあい推進事業」の「カブトムシ里親まつり」について紹介（11月号 No.1137）されました。

(7) 活動紹介

- ア 局の「森林（もり）のギャラリー」
令和3年2月2日～2月25日
- イ 農林水産省消費者の部屋
令和3年12月7日～12月11日



【写真—1 局 森（もり）のギャラリー】

(8) こだま通信

1年間で5号（NO.110～NO.114）を発行し、箕面森林ふれあい推進センターの取組状況についての情報発信を行いました。

1 運営推進懇談会（箕面森林ふれあい推進センター）

（1）趣旨

箕面森林ふれあい推進センターでは、森林づくり活動や自然再生活動を行っているNPO団体等及び森林環境教育を推進している教育関係者等の要望を的確に反映した取組等を行うため、当センターの運営に関して、学識経験者、森林ボランティア活動を行っている者及びマスコミ関係者をメンバーとする懇談会を設置し、懇談会等からの意見及び要望等を反映させた対話型の取組、効果的かつ効率的な運営を推進しています。

（2）検討事項

- ア ボランティアによる森林整備活動に関すること
- イ 自然再生に関すること
- ウ 森林環境教育支援活動に関すること
- エ 情報の受発信に関すること

（3）懇談会委員（五十音順、敬称略）

- ・北出 昭（毎日新聞社天津支局 記者）
- ・久山 慶子（フィールドソサイエティ 事務局長）
- ・山下 宏文（京都教育大学 社会科学科教授）
- ・八代田 千鶴（国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 関西支所 生物多様性研究グループ 主任研究員）

（4）令和2年度運営推進懇談会実施概要

第1回運営推進懇談会を7月22日(水)、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のためウェブ方式で開催しました。懇談会では、令和元年度の事業実施状況及び評価、令和2年度の活動予定について、各担当者から説明を行い、各委員との質疑応答を行いました。

専門家委員からは、「森林環境教育プログラムである森の探検隊の探検ポイントを中学生・高校生向けに拡充を検討するとの説明があったが、具体的な内容はあるのか」、「前回要望している学習ルートのモデルコース設定については、検討はどこまで進んでいるのか」、「里山再生事業箇所において、植生等調査を行っているとの説明があったが、これまでの調査結果を年度別にとりまとめられていると思うので見せて頂きたい」、「令和元年度ニホンジカの生息状況外モニタリング調査によるシカの利用ポテンシャルマップは良いデータなので、今後検討予定

の箕面国有林における個体数管理指針に盛り込んでどうか」、「森林環境教育手引書(小学校編)について、学習指導要領が改訂されていることから、手引書の改訂に取り組む必要がある」、「情報発信の方法について、SNSやフェイスブックなどを追加してはどうか」、「創作紙芝居「雨水のぼうけん」は良い教材であることから、さらにテーマごとに作品を作ってはどうか」と言った多くの意見や助言を頂きました。

専門家委員から頂いた意見や助言を踏まえ、実施可能なものから取り組むこととしています。



【写真-1 ウェブ方式により各委員へ説明】

第2回運営推進懇談会については、令和3年3月に開催すべく準備を進めていたところでしたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い緊急事態宣言が発令されたことにより、中止することが妥当であると判断し、1月14日付けで各委員へ中止の連絡手続きを行いました。

なお、令和3年度の第1回運営推進懇談会において、令和2年度の実施報告を併せて行うこととし、開催時期は令和3年6月から7月の開催に向けて準備を進めていきます。

2 取組一覧・連携一覧

(1) 森林環境教育関係

各種事業を通じて、森林環境教育等の普及・技術提供・情報発信に取り組んでいます。

年月日	内 容	参加者	場 所
2020/7/22	第1回箕面森林ふれあい推進センター 運営推進懇談会	懇談会委員	局 (Web方式)
2020/8/26	第1回「箕面体験学習の森」育成・活用事業(Ⅱ) 検討委員会	検討委員会委員	箕面国有林
2020/10/11	カブトムシ里親まつり(放虫編) (NPOクワガタ探検隊と共催、森林ふれあい推 進事業)	公募	箕面国有林
2020/11/11	Y M C A 学院高等学校へ出前授業	高校生	大阪市
2020/11/26	近畿大学生国有林視察案内	大学生等	箕面国有林
2021/3/15	第1回森林環境教育手引書改訂検討委員会	改訂検討委員会 委員	局 (Web方式)
2021/3	第2回「箕面体験学習の森」育成・活用事業(Ⅱ) 検討委員会	検討委員会委員	書面開催

(2) ニホンジカ被害対策関係

ニホンジカ被害対策を通じて、自然再生及び多様な生態系の維持に取り組んでいます

年月日	内 容	参加者	場 所
2020/8/25	シカ捕獲事業安全指導	大阪府猟友会 箕面支部	箕面国有林
2020/10/28	シカ捕獲事業安全指導	大阪府猟友会 箕面支部	箕面国有林
2021/2/25	シカ捕獲事業安全指導	大阪府猟友会 箕面支部	箕面国有林

(3) 森林環境教育関係等

地域・NPO団体等との連携を大切にして活動しています。

年月日	内 容	参加者	場 所
2020/6/11	明治の森箕面国定公園 保護管理運営協議会 幹事会	明治の森箕面国定公園保護 管理運営協議会幹事（大阪 府、箕面市外）	箕面市役所
2020/7/16	明治の森箕面自然休養林 管理運営協議会 （第 81 回例会）	明治の森箕面自然休養林管 理運営協議会（大阪府、箕 面市、森林ボランティア団 体外）	箕面市役所
2020/7/1	明治の森箕面国定公園 保護管理運営協議会 総会	明治の森箕面国定公園保護 管理運営協議会（大阪府、 箕面市外）	箕面市立 市民会館
2020/9/17	明治の森箕面自然休養林管理 運営協議会 （第 82 回例会）	明治の森箕面自然休養林管 理運営協議会（大阪府、箕 面市、森林ボランティア団 体外）	箕面市役所
2020/10/14	令和 2 年度 秋季明治の森箕面国定公園 パトロール	大阪府北部農と緑の総合事 務所、大阪府池田土木事務 所、箕面市外箕面国有林外	箕面国有林外
2020/10/15	明治の森箕面自然休養林 管理運営協議会 （第 83 回例会）	明治の森箕面自然休養林管 理運営協議会（大阪府、箕 面市、森林ボランティア団 体外）	箕面市役所
2020/10/18	生物多様性研究フォーラム 2020 において取組発表	箕面市、NPOみのお山麓 保全委員会	箕面文化・交流 センター
2020/12/5	第 17 回箕面の山大掃除大作戦	箕面の山パトロール隊、箕 面市不法投棄防止対策連絡 会、明治の森箕面国定公園 保護管理運営協議会外	明治の森箕面国 定公園
2020/12/17	明治の森箕面自然休養林 管理運営協議会 （第 84 回例会）	明治の森箕面自然休養林管 理運営協議会（大阪府、箕 面市、森林ボランティア団 体外）	箕面市役所
2021/3/18	明治の森箕面自然休養林 管理運営協議会 （第 85 回例会）	明治の森箕面自然休養林管 理運営協議会（大阪府、箕 面市、森林ボランティア団 体外）	箕面文化・交流 センター

(4) ニホンジカ被害対策等自然再生関係

年月日	内 容	参加者	場 所
2020/7/18	大阪ハンティングアカデミー講義	公益社団法人大阪府猟友会	大阪府 咲洲庁舎
2020/8/22	大阪ハンティングアカデミー講義	公益社団法人大阪府猟友会	大阪府 咲洲庁舎
2020/9/4	大阪ハンティングアカデミー講義	公益社団法人大阪府猟友会	大阪府 咲洲庁舎
2020/10/2	大阪ハンティングアカデミー講義	公益社団法人大阪府猟友会	大阪府 咲洲庁舎
2020/10/18	生物多様性研究フォーラム 2020 において 取組発表	箕面市、NPO みのお山麓保全 委員会	箕面文化・交流 センター